

★最新介護医療情報★

認知機能障害：治療に光 かすかな記憶、薬で復活 ヒスタミン分泌促進
(毎日新聞社 H31.1.9[水] 配信)

刺激物質ヒスタミンの分泌を脳内で促す薬を投与すると、「忘れたようなかすかな記憶」をスムーズに思い出せるようになることがマウスとヒトの実験で判明したと、北海道大などの研究チームが8日、米医学誌電子版に発表した。記憶力が悪い方が効果は大きかったといい、アルツハイマー病など認知機能障害の治療薬開発につながる可能性があるとしている。

チームは、脳内の神経細胞で情報のやりとりにヒスタミンが使われ、記憶に関係している点に着目。マウス実験では、匂いや触感で触れた経験を判断する性質を利用し、実験箱で複数のおもちゃを入れ替えて観察した。3日経過すると、最初からあるおもちゃと入れ替え後のおもちゃを区別できなくなった。しかしヒスタミンの分泌を促進する薬を与えたところ両者を区別できるようになった。

人の実験では、ヒスタミンの分泌促進作用がある市販薬と偽薬(プラセボ)を活用。20～40代の男女38人に写真約100枚を見せ、1週間後に覚えているか確かめた。市販薬を投与した場合の正答率は46%で、偽薬投与を3%上回った。

偽薬投与で最も成績が悪かったグループは、市販薬投与で正答率が約25%から約50%に向上。しかし最も成績の良かったグループの正答率は約60%から約40%に低下したという。

チームは、ヒスタミン分泌で脳内の神経細胞全体が活性化され、記憶の断片をすくい取る感度が高まったと分析。ただし活性化による「ノイズ」で、鮮明な記憶を持つ人は逆に思い出しにくくなったのでは、と結論づけた。チームの野村洋・北大講師(神経科学)は「記憶のメカニズムの解明につながる成果だ」と話している。【斎藤有香】

iPSで脊髄治療…慶大チーム臨床研究計画の審議開始
(読売新聞 H31.1.17[木] 配信)

人のiPS細胞(人工多能性幹細胞)から神経のもととなる細胞を作り、脊髄損傷の患者に移植する慶大チームの臨床研究計画について、厚生労働省の再生医療等評価部会の審議が16日、始まった。患者への説明文書をよりわかりやすくするよう求める意見などがあり、継続審議となった。

計画では、脊髄を損傷してから2～4週間が経過した重症患者を対象に、iPS細胞から作った神経のもととなる細胞200万個を移植する。

地域ルピナス講習会のお知らせ

第22回城東地域リハビリ勉強会
⇒パ・キンツ病の摂食・嚥下 - 理学療法士の視点 -
開催日：平成31年2月16日(土)
時間：午後6時00分～午後7時00分
場所：城東区民センター 小会議室3
講師：ルピナス理学療法士 出口直弥



第62回東大阪地域リハビリ勉強会
⇒パーキンソン病に対しての歩行介助のポイント
開催日：平成31年2月21日(木)
時間：午後6時00分～午後7時00分
場所：東大阪市立東体育館 第三研修室
講師：ルピナス理学療法士 出口直弥

第33回忠岡地域リハビリ勉強会
⇒訪問におけるリハビリと看護の必要性について
開催日：平成31年3月15日(金)
時間：午後6時30分～午後7時30分
場所：忠岡町文化会館 地下1階会議室
講師：ルピナス理学療法士 多田大樹
ルピナス理学療法士 池辺晃子

